

学習指導要領		府中工業高校 学力スタンダード
<p>(1) 数と式</p> <p>ア 数と集合</p> <p>(ア) 実数 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすること。</p> <p>(イ) 集合 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用すること。</p> <p>イ 式</p> <p>(ア) 式の展開と因数分解 二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深め、式を多面的にみたり目的に応じて式を適切に変形したりすること。</p> <p>(イ) 一次不等式 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めたり一次不等式を事象の考察に活用したりすること。</p>	<p>(1) 自然数、整数、有理数、無理数の包含関係など、実数の構成を理解する。</p> <p>(2) 実数と直線上の点が一対一対応であることを理解し、実数を数直線上に示すことができる。</p> <p>(3) 無理数の加法及び減法、乗法公式などを利用した計算ができる。また、分母だけが二項である無理数の分母の有理化ができる。</p> <p>(4) 集合に関する基本的な用語・記号や集合の包含関係を理解するとともに、ベン図や数直線を活用して、二つの集合について、共通部分、和集合、補集合を求めることができる。</p> <p>(5) 命題、条件の否定、命題の逆・裏・対偶などの基本事項を理解し、集合（真理集合）を用いて、命題の真偽が判断できる。また、二つの条件について、「必要条件」「十分条件」を判断できる。</p> <p>(6) 命題の対偶と元の命題の真偽が一致することを理解し、命題の対偶による証明ができる。また、背理法が「<math>p \Rightarrow \bar{q}</math>」を仮定して、矛盾を導き出すことによる証明法であることを知る。</p> <p>(7) 二次の乗法公式及び因数分解の公式が活用できる。また、式の置き換えや一つの文字に着目するなどして、展開・因数分解ができる。</p> <p>(8) 数量の大小関係についての条件を不等式で表すことができ、大小関係を処理する上での基本となる不等式の性質を理解する。</p> <p>(9) 不等式の解の意味を理解するとともに、不等式の性質を利用して、一次不等式や連立不等式を解くことができる。また、日常的な簡単な事象について一次不等式や連立不等式を活用できる。</p>	

学習指導要領		府中工業高校 学力スタンダード
<p>(2) 図形の計量</p> <p>ア 三角比</p> <p>(ア) 鋭角の三角比 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。</p> <p>(イ) 鈍角の三角比 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求めること。</p> <p>(ウ) 正弦定理・余弦定理 正弦定理や余弦定理について理解し、それらを用いて三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。</p> <p>イ 図形の計量 三角比を平面図形や空間図形の考察に活用すること。</p> <p>ア 二次関数とそのグラフ</p> <p>(3) 二次関数 事象から二次関数で表される関係を見いだすこと。また、二次関数のグラフの特徴について理解すること。</p>	<p>(10) 鋭角の三角比の定義を、直角三角形の辺の比と角の大きさとの間の関係として理解し、直角三角形の辺の長さを求めることができるとともに、身近な事象に活用できる。</p> <p>(11) 三角比の相互関係を理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。</p> <p>(12) 鈍角の三角比の定義が鋭角の三角比の定義の拡張であることを理解する。また、<math>180^\circ - \theta</math> の三角比について理解し、鈍角の三角比を求めることができる。 (三角比の表を活用することも含む。)</p> <p>(13) 三角比の相互関係が <math>90^\circ \leq \theta \leq 180^\circ</math> まで拡張されることを理解し、一つの三角比の値から残りの三角比の値を求めることができる。</p> <p>(14) 三角形の辺と角の間に成り立つ基本的な関係として正弦定理及び余弦定理を理解し、正弦定理や余弦定理を利用して、辺の長さを求めることができる。</p> <p>(15) 三角比を利用して、三角形の面積を求めることができる。</p> <p>(16) 関数の定義を理解し、基本的な事項（定義域、値域、座標平面等）を理解するとともに、座標平面上の点の平行移動や二次関数で表される事象を判断できる。</p> <p>(17) 対称軸（直線 <math>x = p</math>）や頂点 <math>(p, q)</math> に着目して二次関数のグラフの特徴を捉えることができ、二次関数 <math>y = ax^2 + bx + c</math> を <math>y = a(x - p)^2 + q</math> の形に変形し、二次関数のグラフをかくことができる。</p>	

学習指導要領		府中工業高校 学力スタンダード
<p>イ 二次関数の値の変化</p> <p>(ア) 二次関数の最大・最小 二次関数の値の変化について、グラフを用いて考察したり最大値や最小値を求めたりすること。</p> <p>(イ) 二次方程式・二次不等式 二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解するとともに、数量の関係を二次不等式で表し二次関数のグラフを利用してその解を求めること。</p> <p>(4) データの分析</p> <p>ア データの散らばり 四分位偏差、分散及び標準偏差等の意味について理解し、それらを用いてデータの傾向を把握し、説明する。</p> <p>イ データの相関 散布図や相関係数の意味を理解し、それらを用いて二つのデータの相関を把握し説明すること。</p>	<p>(18) 二次関数のグラフから頂点又は軸を境として、関数の値の増減が変化することを理解し、二次関数の最大や最小を考察でき、具体的な事象に活用できる。(閉区間を含む。)</p> <p>(19) 二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との共有点の <math>x</math> 座標は二次方程式の解であることを理解し、<math>x</math> 軸との共有点の <math>x</math> 座標を求めることができる。</p> <p>(20) 二次関数のグラフと <math>x</math> 軸との位置関係により、二次不等式の解の意味を理解し、二次関数のグラフを活用して、<math>x</math> 軸との共有点が2個である場合の二次不等式について解くことができる。</p> <p>(21) 最小値、四分位数、最大値、四分位範囲、四分位偏差、分散、標準偏差等の用語について理解するとともに、データから最小値、第1四分位数、第2四分位数(中央値)、第3四分位数、最大値を求め、これらに基づいて箱ひげ図をかくことができる。また、四分位偏差を求め、複数のデータの散らばりについて比較、説明することができる。</p> <p>(22) 散布図や相関係数の意味を理解するとともに、二つのデータの相関について説明できる。</p>	